

【考えてみよう！ 開祖さまだったら、私だったら】

春日部教会壮年部 平成 30 年度「壮年の日」実行委員会

次の「開祖さまの御心」を参考に、下記のエピソード ①～③ の答えをお考えください。

答え合わせは 6 月 24 日（日） 8：45～
春日部教会「壮年の日」で！！

開祖さまの御心

開祖さまは、一日一日、一瞬一瞬を大事にされました。

そしてすべての人に「一期一会」の心でのぞんでおられました。

会員さんと語り合われるとき、開祖さまは、明るい笑顔でパッパッと即座に応答され、相手のそのままと認めつつ、執着を取り去ってくださいました。（中略）

この心をひとつの言葉に集約すれば、すべての人が幸せになって欲しいということ、すなわち「思いやり」に尽きます。

開祖さまのすべての言動の源には「思いやり」がこめられてあり、私たちは、それによって心を揺さぶられ、癒され、力づけられるのです。 会長先生（「私のなかの開祖さま」より）

エピソード①

ご巡教先の話。旅館の女将の一人娘さんから、開祖さまは突然、名前の鑑定を頼まれました。聞くと、自分はいま地元の会社に勤めて仕事は充実している。が母親が急に老け込み、「女将を代わってくれ」と懇願してくる。でも、自分は旅館の手伝いをしたこともないし、第一、接客行に向いている人間かどうか分からない。困っていたら「何でも当たる偉い先生が泊まっている」と聞き飛んで来たと言う。開祖さまが名前を鑑定すると接客業には向かない運数と分かった。

さて、そのとき開祖さまが娘さんに言った言葉は A～C のどれでしょう？

A:「あなたは今の事務の仕事が一番向いているようだね。運に逆らって無理をするよりも、ここは お母さんによく謝って、女将は他の人に任せるよう頼みなさい。それが本当の親孝行だし、あなた自身が幸せになる道ですよ」

B:「あなたはいろんな板挟みで困る運勢を持っています。それをいま、お母さんから教えてもらっているのです。それを心から納得し親に感謝できれば、運が開けてきます。
それまで少し待ってほしいとお母さんに懇願してみなさい」

C:「あなたのご両親から素晴らしい名前をもらっています。ですからこれからは、お母さんからよく教えてもらい、言われるように真似して、しっかりとそれを身に付けていけば立派な女将になれます。
安心して親孝行してあげなさい」

エピソード②

法燈継承後のある日、開祖さまはビデオ収録のため故郷の菅沼に入りました。大池の畔でメイン・インタビュアーが「会創立以来、ずっと変わらない気持ちは何ですか？」と質問をしました。それに答えられた瞬間、開祖さまの後ろで大池の魚が一斉に飛び跳ねました。その奇跡的な出来事に感動した取材者が、インタビュー後に開祖さまに報告しながら「開祖さまの話が、魚たちをも感動させた奇跡ですね」と言いました。

さて、それを聞いて開祖さまは A～C のうち何と答えられたのでしょうか？

A:「ほー、それは不思議な光景を見られたもんだ。私も皆さんと一緒にそんな奇跡を見たかったね」

B:「ほー、それは素晴らしい。仏さまの話は魚にも感應道交することが証明されたね」

C:「ほー、それはよかった。でも、それは話を聞いた皆さんの感動が伝わったからですよ」

エピソード③

前々から、「サクラの名所があるから来てください」と何回も教会長さんから催促され、ある日思い立った開祖さまは、式典後の足で小田原に赴かれました。

ところが、その年はサクラの開花が早かったせいもあり、着いた時に見たサクラの木は、すでに葉桜模様でした。

さて、そのときに開祖さまが言われたお言葉は A～C のどれでしょう？

A:「これはまた、サクラから無常を教えてもらえたもんだね」

B:「これはまた、見事な枝っぷりだね」

C:「これでまた、来年もここへ来れる口実ができたね」

回答	エピソード①	エピソード②	エピソード③

＊答え合わせは 6 月 24 日「壮年の日」で！